

庭づくりは人づくり

青砥 安彦 福島県東白川郡 五十七歳

わが家には四十年前に産声を上げた庭がある。父手造りの庭だが、年を重ねる毎にその味わいが出てきた。植栽した植木も結構な樹形を成すまでに育った。

私は、庭づくりはある意味子育てと同じだと思っている。子どもは生まれてから一人前になるまでしつかり躾し、教育を施す。病気やケガに注意しながら愛情を込めて育てる。それに費やす時間が多ければ多いほど子どもは豊かに育つ。手を抜けばその分欠陥が生じる。

庭づくりもまったく同じ。雑草が伸びれば何度でも草を引き、暑い盛りは毎日水かけをする。植木も枝葉が伸びれば剪定し樹形を整える。追肥をしたり病害虫予防に手間をかける。これを地道に繰り返すことで、庭はゆっくりと静かに育つ。少しでも手間を惜しむとたちまち表情が変わる。私は庭づくりは百年かかると見ている。一代では到底無理であり、わが家もまだ道半ば。これまで父が手掛けてきた庭づくりは、いずれ私が継ぐことになる。そしてさらに私の子が後に続き、庭づくりへの思いが芽生えれば、わが家の庭は完成である。

それまでには幾多の紆余曲折が待っている。それを乗り越えなければならぬ。庭はその家の顔であり、庭づくりはその家を舞台にした人づくりである。